SURE 静岡大学学術リポジトリ
Shizuoka University REpository

I 日本語・日本事情教育：平成26年度日本語予備コース(第6期)(年次報告(平成26年度後期・27年度前期))

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2016-06-24 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 袴田, 麻里 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00009637

日本語５　会話　１コマ／週

目　　的：場面に応じた日本語を意図したとおりに話せるようになる。

内　　容：授業中の話し合いを通して、聞き手が不快に思ったり誤解したりしない日本語を話す練習をする。課題として、それを文章化することによって、書く練習にもつなげる。

使用教材：『日本語を話すトレーニング』（ひつじ書房）

平成26年度日本語予備コース（第６期）

袴田　麻里

１．コースの趣旨と目標

14年度後期より開講してきた学部入学前予備教育プログラム（日韓理工系学部留学生コース）を、21年から研究生向けに変更し後期にのみ開講している。

本コースは、修士課程進学を前提に本学で研究生として在籍する留学生に対して、大学院受験に足る、また、修士生として勉学できる日本語能力（日本語能力試験２級以上）を身に付けさせることを目標としている。中級から上級レベルの語彙、文法、漢字能力の補強、発話能力、作文能力の育成を行った。

２．授業期間

第６期：平成26年10月８日～平成27年２月12日

３．受 講 生

日韓理工系学部留学生１名が正規生として履修した。その他に、プレイスメントテストの結果、正規生と同レベルの日本語力を持つと判定された研究生２名（中国１、ベトナム１）が受講することになった。３名とも90％以上の出席率であった。

４．日程と時間割り

〈日程〉　10月３日（金）　ガイダンス
　　10月６日（月）　プレイスメントテスト
　　10月８日（水）　コース開始
　　12月11日（木）　中間試験
　　２月10日（火）　期末試験
　　２月12日（木）　コース修了

〈時間割と担当者〉

	月	火	水	木	金
08：40－10：10	文法、語彙［国セ専任］	文法、語彙［非常勤］	科学系日本語［非常勤］	文法、語彙［非常勤］	文法、語彙［非常勤］
10：20－11：50	作文［非常勤］	速読［非常勤］	聴解［非常勤］	作文［国セ専任］	会話［非常勤］

5．授業概要

表現したいことを適切に表現できるようになること、文法・語彙と共に修士生としての勉学に必要な漢字習得を学習目標としている。また、大学生活により密着した表現形式を身につけさせるため、作文教材の改善、会話コマの内容改善を行った。

語彙・文法　4コマ／週

使用教材：『文化中級日本語Ⅰ、Ⅱ』（文化外国語専門学校）

目　　的：①精読を通して、語彙、文法に理解を深める。
②中級から上級レベルの漢字を習得する。

内　　容：教科書本文を精読後、提出された語彙の確認を行なう。類義語、対義語がある場合には、同時に提示する。どのような場面、文脈、文体で使用するのかを明確に理解できるよう、例文を多く用い説明する。また、理解の程度を確認するため、3～4コマに1コマは復習の時間を設ける。漢字テストは1課終了ごとに行なう。

速　読　1コマ／週

使用教材：新聞、雑誌などから適宜

目　　的：細かい部分にこだわらず、全体をつかむ読み方ができるようになる。また、日本語の文章構造に慣れ、重要項目、重要段落を探せるようになる。

内　　容：教材を規定時間内に一読し、キーワードの抽出を行なう。また、文章の構造を把握するために、段落ごとに要約をする。最後に全体の内容の理解度を確認する質問を行なう。

作　文　2コマ／週

使用教材：自主製作教材

目　　的：話し言葉と書き言葉の違いを理解し、使い分けられるようになる。日本語の文章表現法を身に付け、まとまりのあるレポート程度の文章が書けるようになる。

内　　容：例文を通して作文のための表現を学び、練習問題で表現の使い方を理解する。次に1つのテーマについて資料をもとにディスカッションを行ない、その内容を学んだ表現を使いながら作文する。

聴　解　1コマ／週

使用教材：『文化中級日本語Ⅰ、Ⅱ』（文化外国語専門学校）
『毎日の聞き取り50日　中級』上、下（凡人社）
『毎日の聞き取り50日　中級プラス』上、下（凡人社）

目　　的：細かい部分にこだわらず、全体をつかむ聞き方ができるようになる。また、日本語の発話に慣れ、発音や強調など音声上の特徴から要点を聞き取れるようになる。

内　　容：語彙・文法で導入された項目を音声を通して再度確認する。適宜、重要語句や表現の提示を行ない、発話練習の準備とする。聞き取りにかった部分については、その理由について考察する。

会　話　1コマ／週

使用教材：『文化中級日本語Ⅰ、Ⅱ』（文化外国語専門学校）

目　　的：語彙・文法、速読で得た語彙や表現を口頭で表現できるようになる。

内　　容：語彙・文法、速読の教材の内容について、ディスカッションを行なう。また、同じ話題で日本人ボランティア学生ともディスカッションを行ない、対話の形式、質問に対する返答など適切に発話できるよう練習する。

科学系日本語　1コマ／週

使用教材：『留学生、研修生のための科学技術日本語』（金沢工業大学）

目　　的：工学部では日常的に使用されるが、日本語教材では取り上げられない語彙、表現を身に付ける。

内　　容：1コマ1課で「手を使う」など項目ごとに動詞、また状態を表す副詞の導入、練習を行なう。受講生の母国語に対応する語が必ずしもあるとは限らないため、できるだけ実物や動作を使い、具体的な理解を促す。課ごとに理解を確認するテストを行なう。

6．学内での連携

正規生である日韓理工系学部留学生には、日本語授業とは別に、工学部教員が数学、物理、化学、情報処理の授業を実施した。そのため、入学前ではあるが、工学部教員が日韓理工系学部留学生の学力レベルや人となりを知る機会となり、入学後の指導が円滑に行われている。

集中コースという性格上、研修生の履修は、研究室での活動に制限が生じる恐れがある。そのため、受講生が研究活動と日本語学習のバランスを取れるよう、プレイスメントテストの結果を指導教員にも送付し、集中コースについて指導教員から理解を得た。また、申込み用紙には、受講者と指導教員が受講理由を書く欄を設け、指導教員からの受講許可を明確にした。

履修者の中間試験、期末試験結果は、履修状況とともに、日韓理工系学部留学生は工学部留学生担当教員へ、研究生は指導教員へ送付し、学部教員が指導留学生の日本語学習状

況を把握できるようにし、相互に連絡を取り合いながら、指導にあたった。また、留学生支援ボランティアを教室に招いてインタビューさせるなど、学んだことを使い、同時に多様な日本語に触れられるよう心がけた。特に会話クラスでは日本人学生にインタビューするというプロジェクトワークを企画した。聴解クラスでインタビューの手順を学び、テーマを決めてから実施した。インタビューで得た内容は、作文クラスでまとめた。

平成26年度 NIFEEコース（第6期）

袴田　麻里

1．コースの趣旨と目標

工学部でのNational Interfacing Engineers Education program（NIFEE）開始に伴い、21年度後期から開講した。NIFEEは、日本のモノづくり、品質管理・生産管理を学ぶための特別講座が組まれており、日本語・日本文化とともに工学分野が勉強できる留学生プログラムである。対象は、タイ、ベトナム、インドネシアの3国のみである。

初年次秋学期は導入期間とされており、国際交流センターは、全学教育科目として、初年次秋学期に日本語集中授業（週10コマ）を担当した。

2．授業期間

第6期：平成26年10月8日～平成27年2月12日

3．受 講 生

4名の一般選抜留学生（ベトナム2、インドネシア1、タイ・日本1）の受入れであった。

4．日程と時間割り

〈日程〉　9月25日（木）　来日
10月3日（金）　ガイダンス
10月6日（月）　プレイスメントテスト
10月8日（水）　コース開始
12月11日（木）　中間試験
2月10日（火）　期末試験
2月12日（木）　コース修了